

医師に聞く  
メカニズム

花粉が多く飛び、花粉症の人にはつらい季節になりました。国際医療福祉大の岡野光博教授と川崎医科大の尾内一信・小児科教授に、メカニズムや子どもの花粉症について聞きました。(文中敬称略)

—花粉の飛散がピークを迎えています。

**尾内** 2月からスギ、3月からヒノキの花粉が飛び始めています。5月ごろまでは注意が必要です。

—メカニズムは。

**岡野** 花粉が目や鼻に入ると、体内をパトロール中のリンパ球が花粉を侵入者として認識。対抗するためにIgE抗体を作り、外敵から体を守るマスト細胞とくっつきます。花粉が再び入るとマスト細胞が活性化。神経を刺激しアレルギー症状の原因となるヒスタミンといった化学伝達物質を放出し、くしゃみやかゆみを引き起こす。

—発症している子どもも多いと聞きます。

**岡野** 2008年の調査では、スギ花粉症の割合は0〜4歳1.1%、5〜9歳13.7%、10〜19歳で31.1%



国際医療福祉大  
岡野光博教授

# 花粉を「侵入者」と認識

## 花粉症のメカニズム



## 発症どんどん低年齢化 自分守る方法考えて

- 今すぐできる対策
- 花粉情報に注意しよう。
  - 花粉が多い時は窓、戸を閉めよう。部屋の掃除も大切です。
  - 外出時は眼鏡、マスクをしよう。
  - 帰宅時は、衣服や髪をよく払ってから家に入ろう。手洗いや洗顔、うがいも効果的です。

**岡野** 大人に比べ、今の子どもたちは生まれた時から花粉に接している環境にいます。それだけリスクを抱えていることを分かった上で、自分自身をいかに守るか考えてほしいです。

—子どもたちにアドバイスを。

**尾内** 効果の高い治療法が開発されてはいますが、いったんかかると治りにくい病気です。目がかゆいといった症状があったら早めに周りの大人に相談しましょう。

—考えられる要因は。

**尾内** 全国の森林の約2割を占めるスギの存在が大きいです。温暖化の影響もあり、花粉量が増えているのでしよう。

**岡野** 大人に比べ、今の子どもたちは生まれた時から花粉に接している環境にいます。それだけリスクを抱えていることを分かった上で、自分自身をいかに守るか考えてほしいです。

川崎医科大  
尾内一信教授



でした。1998年と比べ5〜9歳は10年で倍増しています。

**尾内** 20年ほど前から症状を訴える中高生が始めました。今では初めて症状を訴える乳幼児もいて、どんどん低年齢化していると感じます。